



平成23年3月31日

各位

上場会社名 株式会社 エヌ・ピー・シー
 代表者 代表取締役社長 隣 良郎
 (コード番号 6255)
 問合せ先責任者 取締役企画情報部長 佐藤 寿
 (TEL 03-5615-5069)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年10月8日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

業績予想の修正について

平成23年8月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成22年9月1日～平成23年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,867	411	418	253	13.63
今回修正予想(B)	8,375	981	831	604	32.53
増減額(B-A)	1,492	1,392	1,249	857	
増減率(%)	15.1				
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年8月期第2四半期)	6,670	738	743	465	26.01

平成23年8月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年9月1日～平成23年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	24,334	2,278	2,288	1,441	75.56
今回修正予想(B)	20,136	484	331	128	6.94
増減額(B-A)	4,198	2,762	2,619	1,569	
増減率(%)	17.3				
(ご参考)前期実績 (平成22年8月期)	14,997	927	1,137	823	45.13

平成23年8月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成22年9月1日～平成23年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,781	595	601	363	19.54
今回修正予想(B)	8,122	715	560	338	18.22
増減額(B-A)	659	1,310	1,161	701	
増減率(%)	7.5				
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年8月期第2四半期)	6,637	709	712	443	24.80

平成23年8月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年9月1日～平成23年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,938	1,833	1,843	1,174	63.19
今回修正予想(B)	18,334	577	419	183	9.87
増減額(B-A)	2,604	2,410	2,262	1,357	
増減率(%)	12.4				
(ご参考)前期実績 (平成22年8月期)	14,946	881	1,085	782	42.88

修正の理由

第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、同期間中に売上を予定していた案件の一部が、第3四半期以降に売上計上することとなったことにより、期初予想より1,492百万円減少し、8,375百万円となる見込みであります。また、通期の連結売上高につきましては、東北地方太平洋沖地震の影響により、東北地方で生産されている一部の部品の出荷が1ヶ月強遅れるとの報告を受けており、また、海外から輸入している部品についても輸入制限等の影響のため、当社への入荷が1ヶ月以上遅れるとの報告を受けております。これらの理由により、受注済みで今期売上予定であった案件の一部が今期中に売上計上できない可能性があります。また、第3四半期以降に受注を予定し今期中に売上計上を見込んでいた案件については、その大半が今期中に売上計上することは困難であると想定しております。当社は特殊部品を使用しておらず、これらの入荷が遅延する部品については代替品に切り替えることが可能でありますので、入荷遅れによる影響は長期化するとは見込んでおりませんが、上記の理由による1ヶ月以上の入荷の遅れが通期売上高に影響を及ぼすこととなります。以上の結果、売上高は期初予想より4,198百万円減少し、20,136百万円となる見込みであります。

第2四半期連結累計期間の営業利益につきましては、原価削減を目的とした新生産方式への移行が遅れたこと、一部の顧客から受注した装置の原価が想定以上に膨らんだことにより、期初予想よりも1,392百万円減少し、981百万円の営業損失となる見込みであります。一方で通期の営業利益につきましては、上述のとおり売上高が期初予想を下回ることによる影響があるものの、下半期において新生産方式への本格的な移行が行われることにより、原価率が大幅に改善する見込みであり、通期の営業損失は484百万円に縮小する見通しであります。

なお、第2四半期連結累計期間及び通期の経常利益、純利益の修正は営業利益の修正に伴うものであり、個別業績予想の修正の理由については、連結業績予想の修正の理由と同一であります。

(注)上記予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上